

中国日语学习者 词汇习得研究

——以形容词名词的搭配为对象

曹红荃／著



知识产权出版社
全国百佳图书出版单位

中国日语学习者 词汇习得研究

——以形容词名词的搭配为对象

曹红荃／著



知识产权出版社
全国百佳图书出版单位

责任编辑：熊 莉

责任校对：韩秀天

文字编辑：欧玉萍

责任出版：卢运霞

图书在版编目（CIP）数据

中国日语学习者词汇习得研究：以形容词名词的搭配为对象 /
曹红荃著. —北京：知识产权出版社, 2013. 8

ISBN 978-7-5130-1581-3

I. ①中… II. ①曹… III. ①日语—词汇—语言教学—研究—
* IV. ①H363

中国版本图书馆 CIP 数据核字 (2012) 第 238917 号



中国日语学习者词汇习得研究

——以形容词名词的搭配为对象

Zhongguo Riyu Xuexizhe Cihui Xide Yanjiu

曹红荃 著

出版发行：知识产权出版社

社 址：北京市海淀区马甸南村 1 号

网 址：<http://www.ipph.cn>

发行电话：010-82000860 转 8101/8102

责编电话：010-82000860 转 8176

印 刷：知识产权出版社电子制印中心

开 本：880mm x 1230mm 1/32

版 次：2013 年 8 月第一版

字 数：209 千字

邮 编：100088

邮 箱：bjb@cnipr.com

传 真：010-82005070/82000893

责编邮箱：xiongli@cnipr.com

经 销：新华书店及相关销售网点

印 张：8.75

印 次：2013 年 8 月第一次印刷

定 价：28.00 元

ISBN 978-7-5130-1581-3/H·093 (4437)

出版权专有 侵权必究

如有印装质量问题,本社负责调换。

序（刊行によせて）

本書は、2007年12月に東京工業大学大学院社会理工学研究科課程博士コースにおいて「形容詞と名詞の共起表現から見る日本語学習者の語彙習得－中国人を対象として－」と題する論文に対して博士（学術）の学位が授与されたのちに加筆し、上梓されたものです。

曹紅荃さんは2003年10月に東京工業大学大学院社会理工学研究科人間行動システム専攻博士課程に入学以来、私の研究室で意欲的に研究に取り組んでいました。東京工業大学に在籍する留学生の中でも日本語能力は抜群であり、持ち前の行動力で未知の研究の世界に接触していきました。折しも、21世紀COE（Center of Excellence）「大規模知識資源の体系化と活用基盤構築」（リーダー：古井貞熙教授）という文部科学省による大型研究プロジェクトが採択され、我々の研究室も参加することになり、曹紅荃さんはそのプロジェクトのRA（Research Assistant）に採用されました。このプロジェクトは情報工学、言語学、心理学、教育学の研究者からなる文理融合の研究集団でした。曹

紅荃さんはこの様々な仲間と出会って、多くの知識を吸収した結果、このようなユニークな研究の成果が得られたのだと思います。

博士論文は、教育現場における学習者の不自然な表現の判定が特に非母語話者教師には困難であるという問題意識から起草されています。中国人日本語学習者の共起表現の習得に着目し、母語転移のメカニズムを解明し、語彙指導の実践に応用するという流れで論を展開しています。

従来までの中国人学習者の習得研究において共起表現から母語転移を探るという新鮮なアプローチは注目に値します。曹紅荃さんは、「不自然な表現」とはなにか、「母語移転」とはどのようなことかを明らかにするために、アンケートやテスト実験などによって、詳細に調査を重ねました。この調査時には、人脈の広さと周囲に信頼される性格から自ら多くの実験協力者を得て、相当量のデータを集めました。

収集した大量のデータを分析するに際して、特に形容詞と形容動詞と名詞の共起に着目し、いわゆる誤用分析を行った結果から考察を加えて、「共起の誤り、意味関係の混同、漢字の移用、文化と文学的な表現、造語、品詞の誤り、制限的用法、接尾辞〔的〕の誤り」の8カテゴリーに分類しました。この分類に際して誤用とは言えないが、不自然な表現があることにも注目し、誤用および不自然な共起の原因として日本語においては慣用的に用いられる共起表現の未習得が大きいこと、母語転移が影響していることを示しました。また、この分析を通して、中国人学習者への形容詞および形容動詞習得の教授法について有用な提案をしています。

この論文の価値を総括しますと、大量の学習者言語データの調査により共起表現における母語の転移を検証し、中国人日本語学習者の語彙学習上の困難な点を解明したこと、日本語における形容動詞の位置づけを再検討し、新たな導入順序を提案したこと、学習者表現データベースを構築して計量的な分析を可能にしたこと、独自の分類による誤用カテゴリーのタグを付与したことで誤用要因の解明と教育上の対策を示したこと、教育上の活用や学習システムのリソースとして利用できる方法を示したことにあります。

曹紅荃さんは、帰国後もたびたび来日し、私どもと研究を共にし、日本国内や国際会議で意欲的に研究発表をしまいいりました。特に2012年3月からは半年東京工業大学で客員研究員として滞在し、博士課程からの継続的研究として、開発した誤用データベースを応用する研究に日本側研究者とともに取り組みました。今も曹さんとの楽しい討論や学会参加の思い出を懐かしく思い出します。この研究の成果は、現在 Web 上に「なたね」という名称で、公開されています（http://hinoki.ryu.titech.ac.jp/natane/misuse_search）。

曹紅荃さんの博士課程での研究成果がこのような形で刊行されたことは嬉しい限りです。心からお喜び申しあげ、これからのますますの研究の発展を祈る次第です。

東京工業大学名誉教授

仁科喜久子

2013年1月

前 言

这是一部以形容词和名词的搭配为主要研究对象,探讨日语学习者特别是中国日语学习者的词汇习得与教育问题的书。

中国学生因为拥有汉字背景,在学习日语时甚为受益,但是同时也会受到一定的影响。特别是词汇方面,因为不像语法那样有严格的规定和规律,学生在产出和理解词汇时,可以利用已学的外语知识,也可以利用已有的汉语知识,在这样的归纳创新的过程中,难免会出现各种各样的误用。因此,发现并分析词汇误用产生的原因,并在教学中避免学生产生误用,就成为教师的一大课题。但是,对于日语不是母语的大量中国日语教师来说,面对学生的千变万化的日语词汇表达,会遭遇很多问题。在判断其表达是否自然时,会出现没有信心或无法断定的情况。而学生自己也会出现相似情况。那么,学生学习日语词汇有何困难和问题点?学生产出的日语表达有何特征?学生的误用有何类型?产生误用的原因是什么?学生怎样做才能防止误用、更好地进行词汇学习?如果能够得到这些问题的答案,彻底分析学生词汇表达的特点,明确误用产生的倾向和原因,并为教师提供充分的误用数

据供其参考,一定能帮助教师更轻松地进行词汇的教学,而学生也一定能够更有效地进行词汇的学习。本书就是以此为出发点,进行了中国学习者的词汇习得研究。

词汇的研究有很多方面。关于词语搭配在外语学习中的重要性,已经众所周知。单词固然重要,熟悉词间关系,联词成组,才能真正地掌握词的用法。日语词汇习得的研究,大部分是关于个别单词的研究,关于词与词搭配的研究还是一个较新领域。本书通过研究搭配实例,发现了单个词语研究无法涉及的诸多问题。同时本书聚焦于学习者的误用,有效验证了母语的迁移。

本书的研究方法是理论与实践相结合,是基于调查和大量语料的实证研究。通过分析大量学习者的作文,发现了学习者词汇习得的倾向性问题,在此基础上进行了两个大规模的调查。一是搭配的实例产出调查,一是搭配的理解判断调查。这两个调查考察了学习者词汇的产出和理解的两大侧面,得到了很有意义的结论。本书在分析调查数据时,利用统计分析的方法,提高了结论的客观性和科学性。分析了中国学习者和其它国家日语学习者词汇表达的异同;比较了学习者与日语母语者词汇表达的异同;明确了影响学习者词汇产出和理解的因素;考察了影响日语母语者评价学习者中介语的相关因素。同时,本书利用所收集的第一手语料,创建了包含以中国学习者为主的各国日语学习者的搭配实例语料的数据库。

本书共包含七个章节,各章的内容简介如下:

第1章“绪论”,主要介绍了本书的研究背景和目的。

第2章“先行研究概述”,进行了日语作为第二语言的习得研究的文献综述,对误用分析的相关研究进行了总结,并对中国日语学习者的词汇习得研究进行了概述。结合已有研究的成果和

不足，进一步明确本书的目的和价值。

第3章“基于误用分析与评价的词汇习得研究”，作为本书的“研究Ⅰ”，是关于学习者词汇使用整体情况的考察。本章根据第二章的总结，将研究焦点放在学习者的词汇使用方面，通过对收集到的学习者作文进行误用分析和评价，总结了学习者在词汇使用方面存在的问题点。发现在学习者的作文中，相比单个单词，与词语搭配相关的误用较多，词语搭配对学习来说比较困难。此发现显示了研究搭配的必要性和重要性。同时，利用此分析中得到的误用数据，对母语者和学习者进行了正误判断调查。结果发现，相对于明显的语法错误等，母语者对学习者的日语词汇使用持有“容许”的态度，甚至抱有“能理解即可”的评价态度。而学习者对于词汇方面的误用却不是很敏感，显示了出现中介语“石化”现象的可能性。此结论进一步证实了词汇习得研究的重要性。

根据第2章的总结和第3章的结论，在第4~6章里，本书着重以形容词名词的搭配为主要研究对象，通过观察实际语料和分析调查数据，对学习者的形容词名词搭配进行了定量和定性的分析。

第4章“基于作文语料库的搭配表达研究”是本书的“研究Ⅱ”，利用收集的第一手作文资料，并结合日本国立国语研究所开发的作文语料库等，针对中国学习者在作文中使用的搭配表达，进行了定量和定性的误用分析。结果发现，形容词搭配集中于一部分的基础形容词，因为越基础其词汇义项就越多，随之搭配也越复杂；而形容动词的搭配中，不仅出现了很多与词性有关的错误，而且难易程度较高的词使用频率较高。对于以汉语为母语的学习者来说，母语的正迁移利于其对词汇中汉字的理解，利

于其正确使用难易程度较高的形容动词汉字词汇；而母语的负迁移则导致其在词性方面用法的混淆。为了阐明学习者共通的习得难点和问题点，在本章里，进一步选取法国日语学习者的搭配表达进行对比。结果发现，虽然母语不同，但是中法两国的学习者都出现了形容动词的词性混淆问题，这反映了日语中形容动词的特点和困难。同时，也发现法国和中国学习者各自特有的误用都集中在词义理解方面。据此，验证了母语迁移的实际情况，也确认了学习者共通的习得顺序和难点。

在第4章里，通过作文中搭配表达的统计分析，得到了学习者词汇习得的倾向性的结论，但是研究瓶颈是搭配表达数量不够多，不利于进一步的更深层次的分析。针对这一问题，第5章开展了“学习者搭配表达实例产出调查”，在对数据进行分析的基础上创建了数据库，这就是本书中的“研究III”。调查基于心理词汇研究的成果，采用“自由联想测试”的调查方法，最大程度地收集了学习者产出的搭配表达实例，作为对比组也收集了母语者的表达实例。通过两者的比较，发现了在词汇表达方面，学习者不同于母语者的一些显著特点，验证了学习者的文化背景对学习者词汇表达内容的影响。其次，针对学习者的表达，进行了缜密科学的误用分析，将学习者的误用分为“词语共现误用、词义混淆误用、汉字的挪用、文化文学性表达、新造词、词性混淆、限制性用法、后缀‘的’之误用”八大类别。通过对学习者误用的定量定性分析，考察了学习者误用产生的背景和原因，明确了学习者的学习策略，进而提出了相应的教学方面的提案。

在第4章和第5章的分析中，共收集包含以中国学习者为主的各国日语学习者的搭配实例语料总计两万多条。本书从教师的实际需求出发，创建了学习者搭配表达数据库，并实现了网上实

时检索（网址：<http://202.117.216.252:8080/kyoki/>）。其中的学习者误用数据，有相应的误用类型标记，能为日语教学和研究提供依据和参考。

第4~5章都立足于词汇的产出方面进行研究，而第6章“学习者搭配表达理解判断调查及分析”作为本书的“研究IV”，则是站在词汇接受及理解的角度，观察学习者对词汇理解判断的过程。本章中进行了“对搭配表达的容许度判断调查”，验证了在接受和理解过程中的母语迁移，进一步考察了母语者对学习者的评价。根据方差分析的结果，发现学习者在理解搭配表达时会受到母语知识的影响，中级日语学习者的搭配表达习得较慢，而搭配表达类型的不同会影响其理解的难易程度。定性分析的结果表明，对于学习者来说，判断日语和汉语间有差异的表达时较为困难。同时明确了何种表达容易发生石化现象，并总结了其特点。并考察了日语母语者容易接受、或者是能够理解的表达有何特点。

在第7章里，总结了各章的发现和成果，并阐明了其关联性。在此基础上，探讨了本书的成果在日语教育现场的应用，并展望了尚未解决的相关问题。

本书以作者的博士论文为基础，增加部分章节内容改写而成。本书作者在东京工业大学攻读博士学位时，属于“社会理工学研究科”（Graduate School of Decision Science and Technology），所学的专业叫“人类行动系统”（Department of Human System Science）。这个专业包括心理学、语言学、认知科学、教育学、系统开发等研究领域，是人文社科与理工学科交叉融合而形成的有特色的专业，培养学生运用交叉学科的思维，用科学的方法发现、分析并解决问题。博士论文就是利用语料库语言学的研究成

果,在学习者支援系统的理念指导下开展起来的。论文的撰写,从选题、方法、调查、分析、到最后成文,都得到了导师仁科喜久子教授的专业性指导和无微不至的关怀。借此次出版之际,向一直在关心和支持我的仁科喜久子教授以及东京工业大学的各位老师表示衷心的感谢!

本书作者从学习日语到教授日语,在母校西安交通大学的培养和支持下成长起来。此次出版,也获得了西安交通大学人文社会科学优秀学术文库基金的资助。在此,对西安交通大学的各位专家、日语系的各位老师和同事、科研院的各位老师表示衷心的感谢!本书的部分内容是2012陕西省社会科学基金项目(12K051)的部分科研成果。

本书的主要读者对象是广大的日语教师、日语教育或二语习得方面的研究生、汉日对比的研究者、对日语或日语教育有兴趣的读者。

感谢知识产权出版社熊莉编辑的辛勤工作!作者学识有限,书中错漏之处,真心希望得到广大读者的批评和指正!

曹红荃

2013年3月

(32) (32)

点検・修正・再検・再修正 (32)

4. 結果と考察 (32)

5. 結論 (32)

6. 参考文献 (32)

7. 謝辞 (32)

8. 索引 (32)

9. 補遺 (32)

10. 附録 (32)

11. 参考文献 (32)

12. 謝辞 (32)

13. 索引 (32)

14. 補遺 (32)

15. 附録 (32)

16. 参考文献 (32)

17. 謝辞 (32)

18. 索引 (32)

19. 補遺 (32)

20. 附録 (32)

21. 参考文献 (32)

22. 謝辞 (32)

23. 索引 (32)

24. 補遺 (32)

25. 附録 (32)

目 次

第 1 章 序論 (1)

1.1 研究背景 (3)

1.2 研究目的 (6)

1.3 研究対象と方法 (7)

1.4 本稿の構成 (8)

第 2 章 先行研究の概観 (13)

2.1 第二言語習得研究の概観 (15)

2.2 母語の転移に関する研究の概観 (19)

2.3 日本語における誤用に関する研究 (25)

2.4 中国人日本語学習者の語彙習得に関する研究 (32)

2.5	まとめ	(36)
-----	-----------	------

第3章 誤用の分析と評価から見る語彙習得の問題点

(研究Ⅰ)		(39)
-------	-------	------

3.1	はじめに	(41)
3.2	先行研究および本章の目的	(42)
3.3	研究Ⅰ-1：作文の誤用分析	(43)
3.3.1	分析対象と方法	(43)
3.3.2	分析結果	(44)
3.3.3	考察	(48)
3.4	研究Ⅰ-2：誤用に対する母語話者の評価の調査	(51)
3.4.1	調査対象と方法	(51)
3.4.2	結果1：母語話者の評価結果	(52)
3.4.3	結果2：学習者と母語話者の比較	(55)
3.4.4	考察	(59)
3.5	研究Ⅰのまとめ	(60)

第4章 作文データベースを利用した共起表現の分析

(研究Ⅱ)		(63)
-------	-------	------

4.1	はじめに	(65)
4.2	先行研究と研究方法	(66)
4.2.1	先行研究	(66)
4.2.2	研究対象と研究方法	(68)
4.3	研究Ⅱ-1：中国人学習者表現の分析	(70)

4.3.1	データ分析の結果	(71)
4.3.2	形容詞表現の分析	(73)
4.3.3	形容動詞表現の分析	(78)
4.3.4	結果と考察	(82)
4.3.5	研究Ⅱ-1のまとめ	(85)
4.4	研究Ⅱ-2：フランス人学習者との対照	(86)
4.4.1	各国の話者の表現の比較	(87)
4.4.2	フランス人学習者表現の考察	(89)
4.4.3	研究Ⅱ-2のまとめと考察	(93)
4.5	研究Ⅱのまとめと考察	(95)

第5章 学習者の共起表現産出に関する調査と分析

(研究Ⅲ)	(100)
5.1 はじめに	(101)
5.2 先行研究	(102)
5.3 調査概要	(104)
5.4 研究Ⅲ-1：学習者と母語話者の対照分析	(106)
5.4.1 協力者情報	(106)
5.4.2 データの概要	(107)
5.4.3 CNとJNの比較	(108)
5.4.4 CNの産出した誤用表現について	(117)
5.4.5 考察	(118)
5.4.6 研究Ⅲ-1のまとめ	(119)
5.5 研究Ⅲ-2：学習者共起表現データベースの構築	(121)

5.5.1	協力者情報	(121)
5.5.2	誤用データの量的分析	(122)
5.5.3	誤用データの質的分析	(126)
5.5.4	考察と教育の対策	(133)
5.5.5	学習者共起表現データベース	(138)
5.6	研究 III のまとめ	(149)

第6章 学習者の共起表現受容に関する調査と分析

(研究Ⅳ)	(151)
6.1 研究目的	(153)
6.2 先行研究	(155)
6.3 共起表現受容に関する調査	(156)
6.3.1 調査協力者	(156)
6.3.2 出題の作成と調査方法	(157)
6.3.3 共起表現の型の内訳	(159)
6.4 調査結果	(160)
6.4.1 データの特徴	(161)
6.4.2 CNの日本語能力別の結果	(162)
6.4.3 型別の結果	(165)
6.4.4 日本語レベル別の型別の結果	(170)
6.5 個別分析	(175)
6.5.1 型別の分析	(175)
6.5.2 出題別の分析	(179)
6.5.3 JNの許容について	(182)
6.5.4 訂正内容の分析	(185)

6.6	結果と考察	(194)
6.7	研究Ⅳのまとめ	(199)
第7章 まとめと今後の課題		(201)
7.1	結果のまとめと総合的考察	(203)
7.2	今後の課題	(211)
参考文献		(213)
付録		(227)
【付録1】	研究Ⅰ-1 作文の誤用分析：作文添削例	(229)
【付録2】	研究Ⅰ-2 誤用に対する評価：調査用紙	(233)
【付録3】	研究Ⅱ：収集作文例および作文データベース 作文例	(236)
【付録4】	研究Ⅲ 共起表現産出に関する調査：調査 用紙	(244)
【付録5】	研究Ⅳ 共起表現受容に関する調査：調査 用紙	(256)